

持続可能な未来を守る“より良い消費者”の育成を目指す

学校教育における普及・啓発

エコ

伝統

つるぎ町立貞光中学校

所在地：徳島県美馬郡つるぎ町貞光字中須賀52番地

沿革：昭和50年4月に発足

生徒数：1年 41名/2年 39名/3年 43名
特別支援学級 4名/合計 127名
(平成30年4月1日現在)

○事業・活動の概要

つるぎ町立貞光中学校では、環境教育の一環として、平成26年度から学校にリサイクルボックスを設置して「資源ごみ回収」などを行っており、平成29年度からは徳島県教育委員会から「新学校版環境ISO」の認定を受けている。「持続可能な社会」についても、各教科で学習しており、平成30年度は、3年生を対象に、総合的な学習の時間や社会科、家庭科など教科横断的な学習を実施することにより、消費者としての自覚を高め、消費者としての権利と責任を理解し、エシカル消費につながる活動ができる生徒の育成に取り組んだ。

○エシカル消費について学ぶ

ほとんどの生徒がエシカル消費という言葉が知らなかったことから、7月の学級活動の時間に、エシカル消費の考え方や既に取り組んでいる団体の活動について学習した。10月には、総合的な学習の時間に鳴門教育大学の坂本有芳准教授を迎え、なぜエシカル消費が求められているのか、国際的な取組内容などに関する講演を聞いた。

○エシカル消費について体験し考える

8月の総合的な学習の時間に、徳島県の伝統産業である藍染めの歴史を学ぶために藍の博物館「藍の館」と、商品の生産、流通等について学ぶために徳島県ゆかりの企業「大塚製薬」の徳島工場と能力開発研究所を見学した。

藍の館では、100%天然の素材を使っている藍染めは環境に優しい染色技法であることや徳島県の藍染めの歴史を学んだ。実際に藍染めを体験することにより、商品ができるまでの過程を知り、商品の価格設定、伝統文化の継承と消費について考えた。

また、大塚製薬では、生産する商品に対する作り手の思いや工夫、社会の多様な変化に対応できる創造力の重要性について学んだ。

公表日：令和元年5月31日 取材：平成31年3月
外部リンク：<https://e-school.e-tokushima.or.jp/tsurugi/jh/sadamitsu/html/htdocs/>

○学校独自のエシカル消費宣言

11月の社会科の授業では、消費者の権利と責任や、自分の日々の消費生活が世界にも影響を与えていることを学んだ。また、1月の家庭科の授業では、環境に配慮した循環型社会を目指して、物を買うとき、使うとき、捨てるとき、それぞれの消費生活と行動を見直した。

生徒は平成30年度の学習のまとめとして、日常生活、学校生活の中でできることを考え、貞光中学校「エシカル消費宣言」を作成し、廊下に掲示した。

貞光中学校「エシカル消費宣言」

- ・ 私たちは「エシカル消費」の理念にある「環境」「人」「人権」などに配慮した消費をします。
 - ・ 地域活性化のための地産地消やチャリティー消費、また、5Rを心がけ、持続可能な豊かな未来の創造をめざします。
- ～日常生活の中で～
- ・ エコバッグを使ったり詰めかえ商品やフェアトレード商品を買ったりします。
 - ・ 伝統芸能の受け継ぎ、町のイベントに参加し地産地消や3Rについて考えます。
- ～学校でできること～
- ・ ノートや消しゴム、シャープペンシルなどを最後まで使い切り、ごみの分別、段ボールや紙類のリサイクルをします。
 - ・ 給食は残さず食べ、マイボトル・水筒を持参します。また、校内の節電・節水に心がけます。



藍染め体験

○今後の目標

2月に実施した生徒へのアンケート結果では、「エシカル消費について理解した」、「今後取り組みたい」と回答した生徒が多かった。

しかしながら、普段の買物では「時々意識している」と回答した生徒が多く、商品の価格が高ければ買えないという意見もあった。日々の生活の中で取り組むことのできるエシカル消費について、どのように意識させるかが今後の課題である。エシカル消費を通じて、消費者教育と環境教育の両方をしっかりと継続して実施していく予定である。